ISO 9001
認証取得

shindaiwa

取扱説明書

エンジン刈払機

SSR230-S

Softスタート

目　次

	頁
1．安全にご使用いただくために	2
1－1　ご使用前に	3
1－2　キックバック	6
1－3　給油	6
1－4　始動	7
1－5　作業	8
1－6　停止	9
1－7　点検・整備	9
1－8　移動・保管	10
2．各部名称	11
3．組立の手順	13
3－1　外観と付属部品のチェック	13
3－2　ハンドルの取り付け	13
3－3　スロットルケーブルの遊び調整	14
3－4　安全ガードの取り付け	15
3－5　刈刃の取り付け	15
4．エンジンの始動と停止	17
4－1　燃料の給油	17
4－2　エンジンの始動	18
4－3　始動困難なとき	20
4－4　停止	20
5．刈払い作業	21
5－1　肩掛けバンドの掛け方	21
5－2　操作の方法	22
6．点検・整備	24
6－1　エアクリーナーの掃除	24
6－2　キャブレターの調整	25
6－3　スパークプラグの点検	26
6－4　シリンダーフィンの掃除	27
6－5　燃料フィルターの掃除	28
6－6　ギヤケースのグリース補給	28
6－7　刈刃の目立て	28
7．長期保管	29
8．故障の診断と処置	30
8－1　エンジンが始動しない場合	30
8－2　力がない場合	31
8－3　その他の故障	32
9．主な消耗品	33
10．仕様	34

⚠ 注意：ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。また、内容をよく理解したうえでご使用ください。不適切な操作や保守は重大な事故につながるおそれがあります。なお、この取扱説明書はいつでも利用できるよう、大切に保管してください。

はじめに

新ダイワ刈払機をご購入いただきありがとうございます。この取扱説明書の「安全にご使用いただくために」を十分理解し、安全に使用してください。この取扱説明書で分からないことがありましたらお求めの販売店かお近くの弊社営業所にお問い合わせください。

刈払機は高速で回転する刃物で草刈りをする機械です。人的負傷、火災を予防するために安全を常に心がけてください。不注意または不適切な使用は重大な事故の原因になります。

シグナル用語の説明

この取扱説明書は次のシグナル用語を使用しています。

⚠ 危　険　**取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。**

⚠ 警　告　**取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。**

⚠ 注　意　**取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。**

1．安全にご使用いただくために

警告ラベルの説明



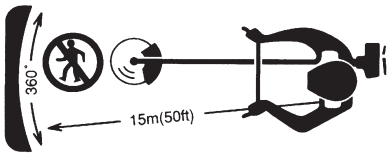
この取扱説明書をよくお読みください。



この機械を運転中は常に耳栓、保護メガネ保安帽を着用してください。

作業中は必ず帽子、保護メガネ、耳栓、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用ください。





この機械を運転中は15m以内に他の人を近づけないでください。



飛散物に注意ください。



木を切らないでください。
ナイロンカッターで作業しないでください。

1－1　ご使用前に

⚠ 危　険

■ 取扱説明書を読んでいない人や年少者（子供）に刈払機を使用させないでください。
■ 本機を他人に貸すときは、必ず取扱説明書を添付してください。
■ はじめて刈払機を使用する方は使用方法を販売店などからよく教わり、使用方法を十分習得してから使用してください。
■ 草刈り以外の用途に使用しないでください。
■ 作業する場所に適した刈刃を使用してください。
・のこ刃＝草など
・笹刈刃＝笹・草全般（木は切らないでください。）
・チップソー＝草など（刃の形で切るものが異なりますので、その刃の用途をよく確認ください。）
・VR8枚刃＝草など（木は絶対に切らないでください。）
異なった用途への使用は、刈刃の破損やけがのもとになりますので、刈刃の用途をよく確認してご使用ください。
■ 作業中は石、金属やプラスチックなどに刈刃を当てないでください。刈刃が破損、飛散し、危険です。
■ 刈刃が石などの硬いものに当たったときは、ただちにエンジンを停止し、刈刃が停止した後に、刈刃に異常がないことを確認してください。異常がある場合はただちに新しい刈刃に交換してください。
■ 曲がり、変形、クラック、破損の生じた刈刃は廃却し、使用しないでください。
■ 安全ガードが取扱説明書にしたがって、しっかりと取り付けてあることを確認してください。
■ 安全ガードなどの安全装置は絶対に取り外さないでください。
■ 作業する場合、刈払機の15m以内に他の人、子供、動物がいないことを確認ください。誰かが近づいてきた場合は、エンジンを停止し、刈刃を止めてください。
■ エンジン始動時および運転時は絶対に刈刃に手や足を近づけないでください。
■ 屋内などの換気の悪い場所では、決して刈払機を運転しないでください。排気ガスにより、ガス中毒をおこします。
■ 排気ガスを直接吸わないでください。人体に有害です。

⚠ 警　告

■ 決して刈払機を勝手に改造しないでください。

■ 疲労、病気、酒気帯びの場合、または医薬品服用中の場合は作業をおこなわないでください。また、作業中に体調が悪くなった場合にはすぐにエンジンを止め、作業を中止してください。



■ 夜間および天候の悪いときは使用しないでください。

■ 風、雨、大雪、濃霧などの悪天候のとき、または落石やなだれのおそれのある場所では、使用しないでください。

■ 作業は早朝や夕方にはおこなわず、視界の良い日中におこなってください。

■ 33ページに指定した刈刃以外は使用しないでください。

■ 刈刃を装着する際は必要な部品をすべて組み込んでください。必要な部品を組み込まない場合には刈刃が抜け落ち、運転者や付近の人に飛んで大ケガになる危険性があります。

■ 作業前に作業場所をきれいにしてください。石、ビン、カン、ワイヤーなどが飛散し大ケガをするおそれがあります。

■ 刈払機の操作時間は1日2時間以内にとどめ、30～40分運転したら10～20分休憩してください。振動障害をおこすおそれがあります。

■ 正しく目立てされた刈刃を使用してください。

■ 混合ガソリンを使用しますので、刈払機のそばで喫煙やたき火をしないでください。火災発生のおそれがあります。

■ 作業前に燃料漏れがないか確認をおこなってください。漏れがあった場合はただちに修理してください。

■ マフラーやマフラーから出る排気は非常に高温になりますので、燃えやすい物を近づけないでください。

■ 作業前に刈払機の点検(24ページを参照)をおこなってください。このとき、破損した部品は交換し、ネジの脱落やゆるみのないことを確認してください。

■ 規格に合った保安帽を正しく着用してください。落下物や飛散物によりケガをするおそれがあります。

■ 必ず保護メガネを付けてください。

■ 必ず耳栓を付けてください。聴覚障害をおこすおそれがあります。

■ 刈払機を取り扱うときには、厚手で滑り止めの付いた防振性のある手袋を着用して手を保護してください。

■ 裾のひらひらした服、アクセサリー類、ショートパンツ、サンダルなどを着用しないでください。頭髪は肩から下に垂れ下がらないように覆ってください。枝や機械の可動部にからまる危険性があります。

■ 靴は底に滑り止めの付いた安全靴を使用してください。雨の日は、滑りやすいので作業をさけてください。



⚠ 注　意

■ 刈刃を装着する際は必ず手袋をしてください。刈刃は鋭い刃が付いています。素手でさわるとケガをします。

1－2　キックバック

⚠ 危　険



■ キックバックは刈刃が硬い物に接触した場合におこる可能性があります。刃物が硬い物に当たった反動により、本体および運転者が激しく押し返されます。この反動をキックバックと言います。結果として運転者は刈払機をコントロールできなくなり、重大な事故につながる場合があります。切断状態がよく見えないときは注意が必要です。

■ 刈刃は目立てしたよく切れる刈刃を使用してください。キックバックの発生が少なくなります。

1－3　給油

⚠ 警　告

■ ガソリンと2サイクル専用オイルの混合および給油は、屋外の風通しの良い火気のない場所でおこなってください。給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えた後にゆっくりと燃料キャップを外しておこなってください。急に燃料キャップを外すと燃料が吹き出すことがあります。

■ こぼれた燃料は本体から拭き取ってください。

■ 燃料の持ち運びや保管など、取扱いには十分注意してください。

■ 燃料は引火しやすいので、混合や給油中にタバコを吸ったり火花を出したりしないでください。

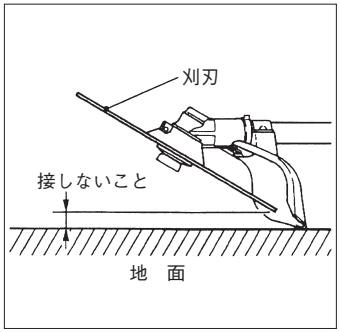
⚠ 注　意

■ 異物やゴミを燃料タンク内に入れないために、燃料を補給する前にキャップのまわりをよく清掃してください。

1－4　始動

⚠ 危　険

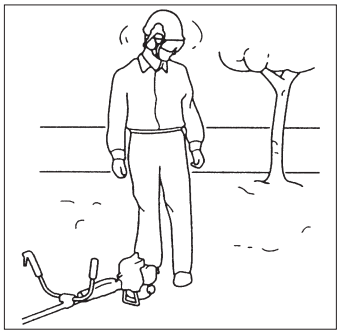
■ エンジンを始動する場合は、刈刃が地面や他の物体に接していないことを確認してください。エンジンが始動するとすぐに刈刃が回転します。



⚠ 警　告

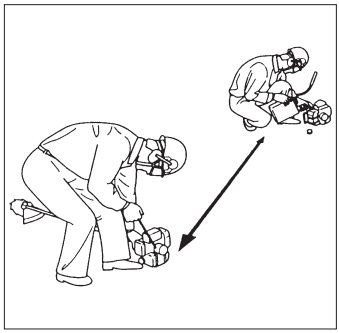
■ エンジンの始動は取扱説明書に従い、安定の良い平らな場所でおこなってください。

■ 始動時は周囲の安全を確認し、一人（補助者なし）でおこなってください。



■ エンジンがアイドリング時、刈刃が回転しないことを確認してください。アイドリング時、刈刃が回転すると危険です。回転する場合はアイドリング調整をして回転速度を下げてください。

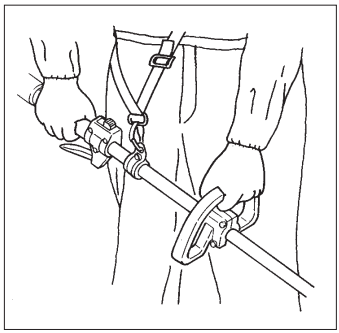
■ 漏れた燃料への引火防止のためエンジンの始動は、給油場所や燃えやすい物から３ｍ以上離れた場所でおこなってください。



1－5　作業

⚠ 危　険

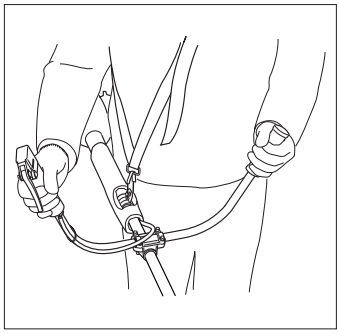
■ 燃料もれがないか確認し、万一漏れていたら必ず修理し漏れていないことを再確認してください。燃料タンク、配管、キャブレタなどから漏れていないか常に注意して下さい。



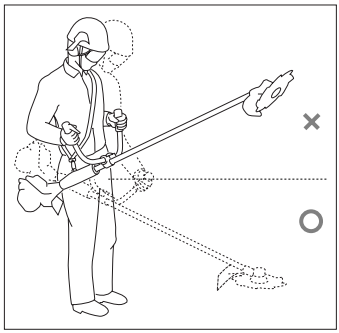
⚠ 警　告

■ 刈払機を操作するときは左右ハンドルまたは前後グリップを両手でしっかりと握ってください。その他の部分を持たないでください。

■ 必ず肩掛けバンド（ストラップ）を使用してください。



■ 刈刃を腰の高さ以上に上げないでください。



■ しっかりした足場の上で安定した姿勢で作業をおこなってください。

■ 作業は原則として一人でおこなってください。数人で作業する場合は15m以上の間隔をあけて作業してください。

■ 刈払機を使用している人に近づくときはお互いに合図をおこない、エンジンを停止し、停止を確認した後に前から近づいてください。

■ 刈刃にものがはさまったり、からまった場合はエンジンのスイッチを切り、刈刃が停止した後に、取り除いてください。
■ 刈払機を落としたり、作業中に木にぶつけたり、何か異物に当てたときは、エンジンを止めて損傷の有無を調べてください。もし損傷があれば使用せず、すみやかに修理してください。
■ この取扱説明書の作業方法にしたがって刈払作業をおこなってください。
■ 燃料キャップは休憩時に増し締めしてください。運転中に振動でゆるんでいる可能性があります。
■ 燃料が漏れた場合は、ただちにエンジンを停止して、火気を近づけないでください。

⚠ 注　意

■ 運転中または停止直後に高温部（マフラー、シリンダーなど）に触れないでください。ヤケドをします。
■ 運転中は高電圧部（プラグキャップ、プラグコードなど）に触れないでください。感電するおそれがあります。
■ 刈刃を石などに当てた場合は、必ずエンジンを停止して刈刃に異常がないか確認してください。
■ エンジンを運転していないときは、刈刃が回転していなくても刈刃に手を触れないでください。

1－6　停止

⚠ 警　告

■ エンジン停止後、あるいはスロットルレバーを戻した後も、刈刃はしばらく回転し危険です。スイッチを切ったときには、刈刃が停止するのを待って、停止を確認した後に刈払機を地面に置いてください。

1－7　点検・整備

⚠ 危　険

■ 点検・整備（刈刃交換、掃除など）をおこなうときは必ずエンジンを停止し、刈刃が停止していることを確認してからおこなってください。
■ リコイルスターターを分解しないでください。部品が飛びだし、ケガをするおそれがあります。

⚠ 警　告

■ ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しの良い火気のない所でおこなってください。
■ 燃料キャップ、燃料タンク、燃料パイプおよびキャブレターなどから燃料漏れがないか定期的に確認してください。
■ 整備と修理をおこなうときは新ダイワ純正部品を使用してください。他社の部品を使用すると重大な事故になる危険性があります。
■ 取扱説明書に記述がない整備や修理はおこなわないでください。記述のない整備や修理はお求めの販売店かお近くの弊社営業所に依頼してください。

⚠ 注　意

■ 点検・整備・掃除などはエンジンが冷えてからおこなってください。ヤケドのおそれがあります。

1－8　移動・保管

⚠ 警　告

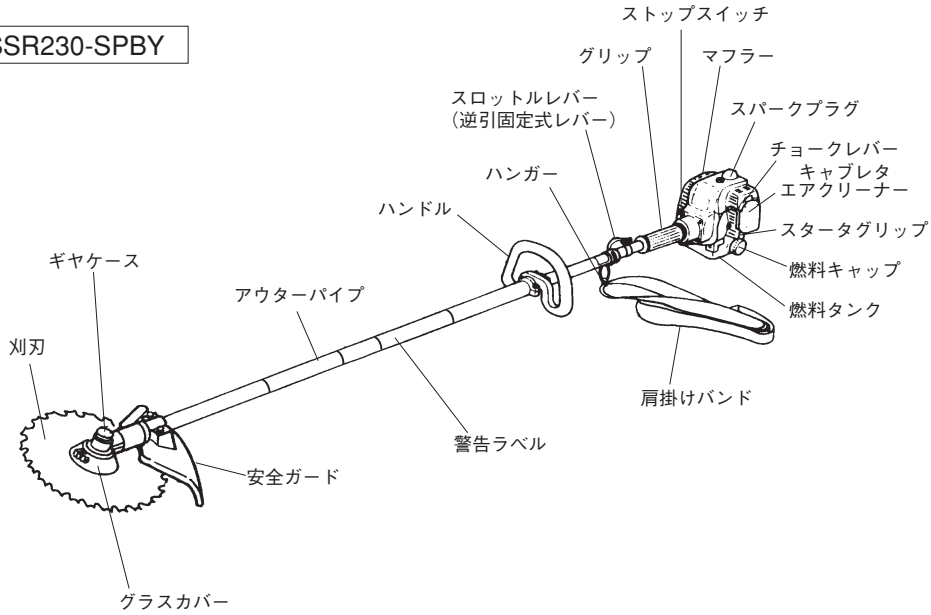
■ 移動時あるいは保管時にはエンジンを停止してください。また、刈刃にカバーをしてください。

⚠ 注　意

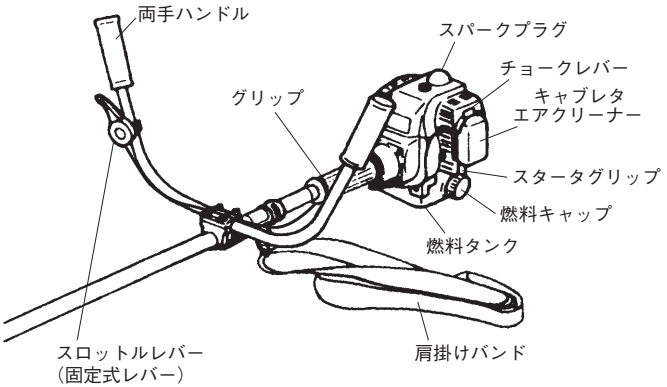
■ 保管の際は、燃料漏れ、破損、ケガなどを防止するために、刈払機を転倒しないように安定した場所に置いてください。
■ 年少者（子供）の手が届かない乾燥した冷暗所に保管してください。
■ 2～3日以上保管する場合は燃料タンク内およびキャブレター内の燃料を空にしてください。

2．各部名称

SSR230-SPBY



SSR230-S2BY



No.	名　　称	機　　能
1	刈刃	刃の付いた金属製円盤です。雑草を切断します。
2	安全ガード	飛散物から運転者を守ります。
3	ギヤケース	エンジン回転を減速するギヤのケースです。
4	アウターパイプ	エンジンの回転力を刈刃に伝える伝動軸が通っており、刈刃を操作するためのさおとなります。
5	号機ラベル	製品の型式名および号機番号を示します。
6	警告ラベル	警告指示事項を示します。
7	ハンガー	刈払機を肩掛けバンド（ストラップ）につるすつり具です。
8	肩掛けバンド（ストラップ）	刈払機を肩からつり下げるために使用するバンドです。
9	スロットルレバー（SSR230-SPBY…逆引固定式レバー）（SSR230-S2BY…固定式レバー）	エンジンの回転速度をコントロールします。
10	スパークプラグ	混合気に点火するための部品です。
11	マフラー	排気音を減少させます。
12	スタータグリップ	ロープを引いてエンジンを始動します。
13	燃料キャップ	燃料タンクの注ぎ口のふたです。
14	エアクリーナー	エンジンに吸入する空気のゴミを取り除きます。
15	キャブレター	燃料と空気を混合します。
16	チョークレバー	冷えているエンジンを始動しやすくします。
17	ストップスイッチ	ボタンを押すとエンジンが停止します。
18	燃料タンク	燃料を入れる容器です。

3．組立の手順

3－1　外観と付属部品のチェック

この製品は工場出荷の際、厳重な検査をおこなっておりますが、念のためにこの製品の損傷ボルト、ナット類のゆるみなどがないか点検してください。また、付属部品の欠品がないか点検してください。
もし、点検の結果、異常や欠品があった場合はただちにお求めの販売店か弊社営業所へご連絡ください。

付属部品
肩掛けバンド（ストラップ）、安全ガード（機械に取り付けてあります。）
刈刃用ポリバッグ、プラグレンチ、六角レンチ、チップソー（φ230）
刈刃カバー、ゴーグル、取扱説明書

⚠ 注　意

■ **ボルトは必ず付属の六角レンチを使用し、手で締め付けてください。**

3－2　ハンドルの取り付け

⚠ 警　告

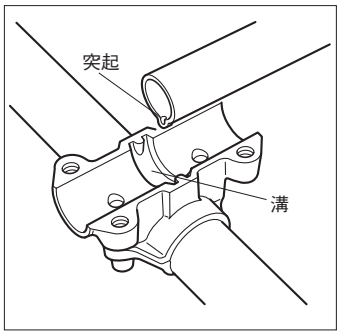
■ **ハンドルは必ず取り付けて使用してください。ハンドルを取り付けずに使用すると重大な事故の原因となります。**

3－2－1　両手ハンドル仕様（―2BY）

①アッパキャップ取付用ボルト4本をゆるめ、アッパキャップを取り外してください。

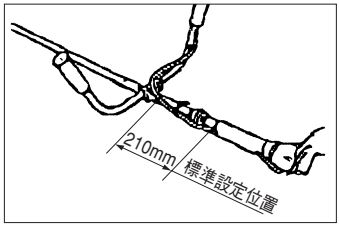
②スロットルレバーの取り付けてあるハンドルを作業状態で右側にくるように取り付けてください。（ハンドルの突起とブラケット側の溝を合わせてください。）（同様にして左側のハンドルも取り付けてください。）

③ハンドルを使いやすい角度にして、ボルト4本を確実に締め付けてください。



④ブラケットの下のボルト２本をゆるめ、ハンドルを使いやすい位置に変えることができます。

⑤ハンドルの標準設定位置はグリップから210mmです。



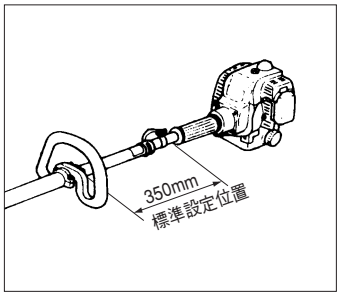
３－２－２　片手ハンドル仕様（―ＰＢＹ）

この製品は工場出荷の際、ハンドルを取り付けてあるので取り付ける必要はありません。ねじの緩み、がたがある場合は強く締めなおしてください。

取り付けてある位置で使いにくい場合は次の要領で位置を変更してください。

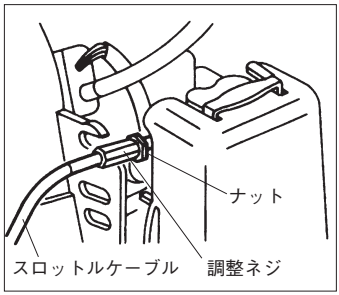
①ハンドルを固定している４つのスクリューをゆるめ、使いやすい位置に変更してください。（標準設定位置はグリップから350mmです）

②エンジン本体およびギヤケース（刈刃）に対し水平になるように調整した後、スクリューを確実に締め付けてください。



３－３　スロットルケーブルの遊び調整

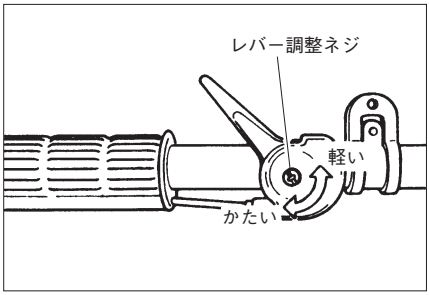
プラグキャップとシリンダーカバーを取り外しスロットルレバー先端での遊びが約５mmになるように調整ネジを調整し、ナットで固定してください。

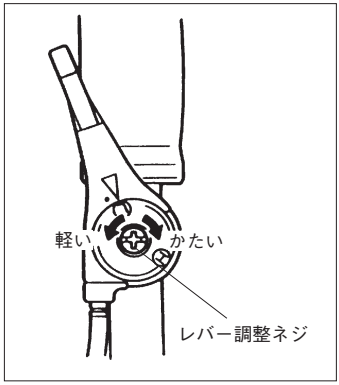


３－３－１　スロットルレバーの調整

スロットルレバーがひとりで戻らないよう、適当なかたさにレバー調整ネジを調整してください。

レバー調整ネジを右に回すと操作がかたくなり、左に回すと操作が軽くなります。





3－4　安全ガードの取り付け

この製品は工場出荷の際、安全ガードを取り付けてあるので取り付ける必要はありません。ねじの緩み、がたがある場合は強く締めなおしてください。

⚠ 警　告

■ **安全ガードは必ず取り付けて使用してください。安全ガードを取り外したり、正しい位置に取り付けないで作業すると飛散物により、重大な事故になる危険性があります。**

注　記

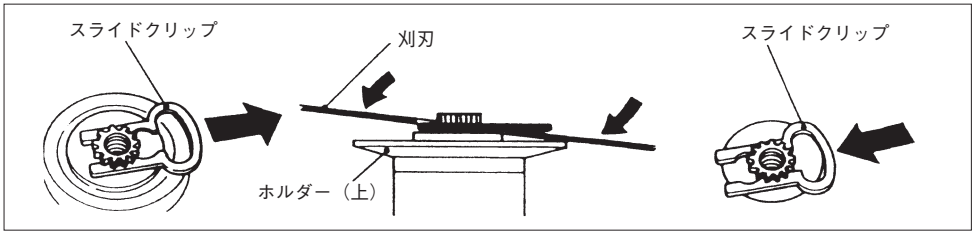
■ **安全ガードに「ガタ」がないか確認してください。**

3－5　刈刃の取り付け

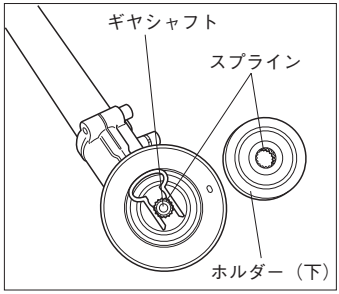
⚠ 警　告

■ **エンジンが停止していることを確認してください。**
■ **刈刃の回転方向と、刈刃の矢印の方向を合わせて取り付けてください。**

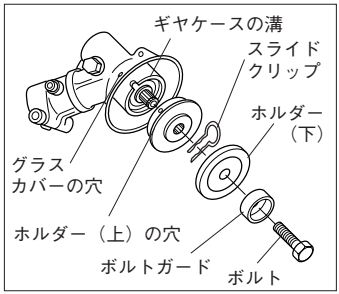
①刈刃の回転方向は通常の草刈姿勢で上から刈刃を見て反時計回りです。
②刈刃固定用ボルト（左ネジ）を付属のプラグレンチで時計方向へ回し、ボルト、ボルトガード、ホルダー（下）を取り外してください。
③スライドクリップを横にずらし（軸から外さない)、刈刃を少し斜めにして、スライドクリップとホルダー（上）の間に差し入れてください。
④スライドクリップをもとに戻してください。

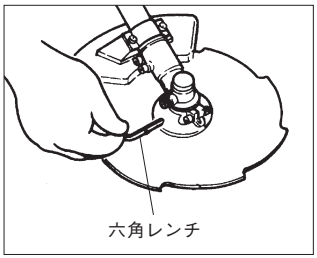


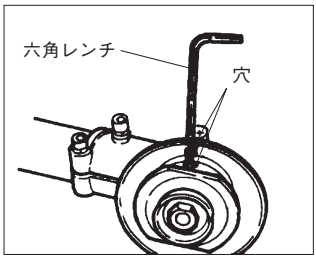
⑤ホルダー（下）をギヤシャフトのスプライン溝に合わせながら、刈刃に確実に密着するように取り付けてボルトガード、刈刃固定用ボルトを手で締めてください。

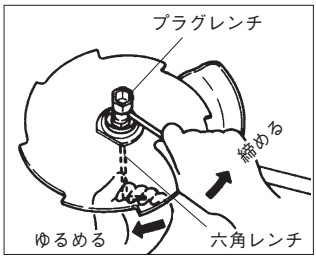


⑥ホルダー（上）、ホルダー（下）を手でゆっくり回しグラスカバーの穴、ホルダー（上）の穴、そしてギヤケースの溝を合わせて、六角レンチ（M５用）を差し込み、ホルダー（上）が回らないことを確認してください。ホルダー（上）が回る場合はギヤケースの穴に六角レンチが入っていないためで、ホルダー（上）を回しながら穴位置を合わせてください。









⑦六角レンチを左手でしっかりと押さえながら、刈刃固定用ボルトをプラグレンチで反時計方向に回し、確実に刈刃を締め付けてください。

⑧刈刃の取り付け後、必ず刈刃が確実に取り付けられていることを確認してください。

⚠ 危　険

■ **取り付けが傾いていたり、締め付けが不十分な場合、運転中に刈刃が外れて飛散し、重大な事故の原因となります。**

⑨軽く手で刈刃を回し、異常な振動または刈刃のぶれがないか確認してください。刈刃にぶれがある場合刈刃の穴がホルダー（上）にきちんと入っていないので、刈刃固定用ボルトをゆるめてやり直してください。

4．エンジンの始動と停止

4－1　燃料の給油

⚠ 警　告

■ **給油は屋外の風通しの良い火気のない場所でおこなってください。**
■ **平らな場所で給油してください。**
■ **こぼれた燃料は本体から拭き取ってください。**

4－1－1　燃料

燃料は必ず、無鉛ガソリン25に対して2サイクル専用オイル1の割合で混合した混合燃料を使用してください。（「新ダイワ純正2サイクルエンジンオイル50：1」の場合は50：1）燃料の混合は安全容器に2サイクル専用オイルを先に入れ、後からガソリンを加えてください。

例	ガソリン	2サイクル専用オイル	
		25：1	50：1
	(L)	(ml)	(ml)
	1	40	20
	4	160	80
	8	320	160

⚠ 注　意

■ **正しい混合比の燃料を使わないと、適正な性能が出なかったり、エンジンの焼き付きの原因となります。**

4－1－2　給油

⚠ 注　意

- **異物やゴミをタンク内に入れないために、キャップを外す前に燃料キャップやそのまわりをよく掃除してください。**
- **常に新しい燃料を使用してください。2～3か月以上経過した燃料、異物が混入した燃料を使用すると故障の原因となります。**
- **燃料タンクに直接燃料を入れて混合することは絶対にしないでください。焼き付きや故障の原因になります。**

①給油する前に燃料をよく混合してください。
②燃料タンクの燃料キャップはゆっくりと外し、燃料を補給してください。
③給油後は確実にキャップを締め、燃料タンクから燃料漏れのないことを確認してください。

4－2　エンジンの始動

Softスタートは軽く引けるスタータです。リコイルスターターを軽く引いてもスプリングの作用で、エンジンを簡単に始動することができます。

⚠ 危　険

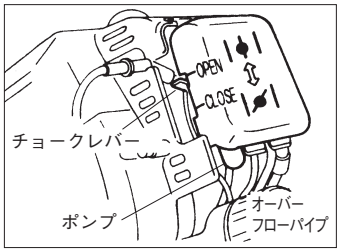
- **エンジンを始動するとき、刈刃が地面や他の物体に接触していないことを確認してください。また、そばに他の人がいないことを確認してください。始動後すぐに刈刃が回転し危険です。**

⚠ 注　意

- **始動時にリコイルスターターのロープを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。**
- **リコイルスターターのロープを急に離さないでください。正しく巻き込まれないことがあります。**

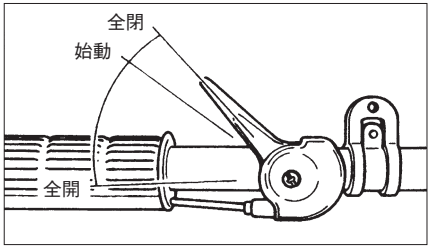
4－2－1　エンジンが冷えているとき、または燃料切れで燃料を補給したとき

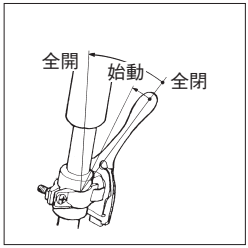
①キャブレターの下に付いているポンプを数回押し、オーバーフローパイプに燃料が流れはじめ、泡がなくなるまでポンプを押してください。



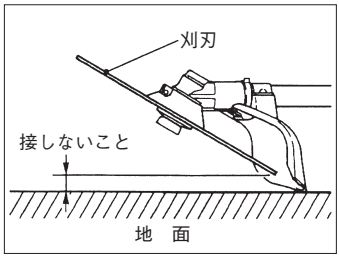
②チョークレバーを閉の方向に押し上げてください。

③スロットルレバーは全閉または始動の状態にします。

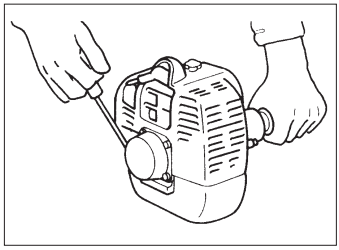




④刈刃が安全ガードにより地面から離れているのを確認してください。



⑤この刈払機を足場のしっかりした平地に置き、図のように左手でエンジンを押さえて、リコイルスターターを引いてください。爆発音がしてすぐに停止した場合はチョークレバーを戻して再度リコイルスターターを引いて始動してください。



注　記

■ **チョークレバーを上げて始動するとき、爆発音がしたら、必ずチョークレバーを戻して再始動してください。チョークレバーを戻さないと燃料の吸い込みすぎになり、始動ができなくなります。**

⑥エンジンが始動したら、チョークレバーを戻してください。チョークレバーを戻す前に停止した場合は、チョークレバーを戻して再始動してください。

⑦エンジンが始動したら、すぐにスロットルレバーを全閉位置に戻してアイドリング回転の状態にしてください。

⑧始動したら、低速回転のままで１～２分間暖機運転をしてください。

４－２－２　エンジンが暖まっているとき
③－④－⑤－⑦の順序で始動してください

4－3　始動困難なとき

エンジンが暖まっている状態で始動しないときは、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してみてください。それでも始動しない場合、またはエンジンが冷えた状態で始動しない場合は次の操作をおこなってください。

①プラグキャップを外します。

②スパークプラグをプラグレンチで反時計方向に回して外し、スパークプラグの電極部が濡れているかどうか調べてください。

③スパークプラグが濡れている場合はスパークプラグに付いた燃料をふき取り乾燥させてください。スパークプラグを抜き取った状態でリコイルスターターを数回引き、数回空転させて燃料をシリンダー内から追い出してください。

⚠ 警　告

■　火気を近づけないでください。火災の原因となります。

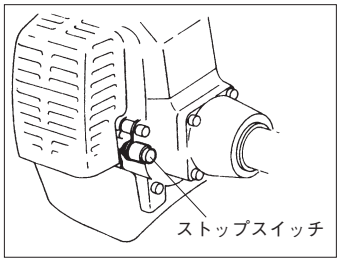
④スパークプラグを付属のプラグレンチで確実に取り付け、プラグキャップをつなぎます。エンジンが暖まっている場合の方法で始動してください。

⑤スパークプラグが濡れていない場合は燃料タンクから燃料が届いていないので、燃料フィルターやキャブレターを点検する必要があります。6－5項の点検をするか、またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

4－4　停止

①スロットルレバーをもとの位置に戻してエンジンをアイドリング回転速度に戻してください。

②エンジンが停止するまで、押しボタンスイッチを押し続けてください。（途中ではなすとエンジンは止まりません。）



5．刈払い作業

⚠ 警　告

■ **作業時は必ず肩掛けバンドを使用してください。**
■ **刈払機を運転中は常に耳栓、保護メガネ、保安帽を着用してください。**

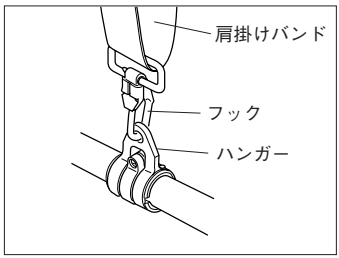
5－1　肩掛けバンドの掛け方

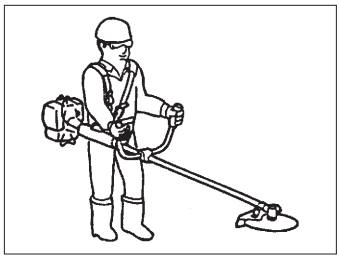
①肩掛けバンドを頭から通し、フックが身体の右側にくるように掛けてください。
②アウターパイプに取り付けてあるハンガーの穴に肩掛けバンドのフックを取り付けてください。
③刈刃が地上から数センチの高さになるように、肩掛けバンドとハンガーの位置を調整してください。

■ハンガーはパイプ上を上下でき、バランスが良いところを見付けてください。ハンガーを動かして刈刃と安全ガードが決められた高さになるように調整してください。

④バランスと高さの調整にはハンガーの位置と肩掛けバンドの再調整が必要です。刈刃と安全ガードを取り付けた状態でバランスを調整してください。







重　要

■ **作業者の身体の大きさがバランス調整に影響します。したがって、機種や人によってはバランスがとれないことがあります。バランス調整ができないときは、販売店で指示を受けてください。**

⚠ 危険・警告

■ この刈払機はさまざまな身体のサイズに合うように設計されていますが、極端に背の高い人には合わないことがあります。
■ 作業者が機械を肩掛けバンドにつり下げたとき、刈刃に足がとどく場合は使用しないこと。

5－2　操作の方法

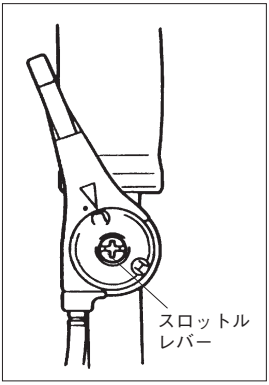
⚠ 警　告

■ 作業中は半径15m以内に他の人を近づけないように注意してください。切りくずや破片などが飛散し大ケガをするおそれがあります。

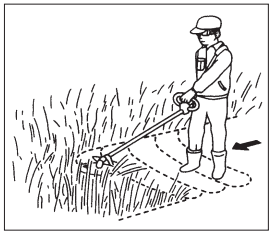
⚠ 注　意

■ 雑草を切らない状態でスロットルレバーをいっぱいに引かないでください。エンジンは空ぶかし（無負荷高速）になり、エンジンやシャフトを破損させる原因となります。
■ クラッチがつながって刈刃が回転していても、低速にしすぎると共振現象による振動、異音を感じることがあります。この状態で作業をおこなうと、クラッチの摩耗が早くなります。また、草なども巻き付きやすいので、回転を上げてクラッチの共振がない回転速度で使用してください。

①エンジン始動させ、スロットルレバーを引いてエンジンの回転を上げていくと、自動的に回転を始めます。作業に適した回転速度が得られる位置に合わせてください。
②スロットルレバーを戻すとエンジンの回転速度が下がり、アイドリング回転速度に戻ります。



③刈刃は反時計方向に回りますので、右側から左側に寄せるように刈ると能率的です。刈り取った草は左側に寄せられるので広い面積を刈るときには左側から前進すると刈り取った草が次の列を刈るときにじゃまにならず、能率的に作業ができます。



⚠ 注　意

炎天下での作業後、再始動しにくいときは、次のようにしてください。

- **休息時や燃料補給時は、刈払機を炎天下（直接日のあたるところ）に置かずに日陰で風通しの良いところに置いてください。炎天下に置くと燃料タンク内のガソリンが熱くなり、エンジンが始動しにくくなります。**
- **休息後エンジンが始動しにくいときは、15分ぐらい日陰で風通しの良いところに置いてから始動してください。**
  キャブレター下のポンプを押して、ガソリンをキャブレターに入れてください。何回も繰り返すとさらに始動しやすくなります。

6．点検・整備

⚠ 警　告

■ **点検、整備は必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてからおこなってください。**
■ **ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しの良い火気のないところでおこなってください。**

点検・整備表

項　目		始動前	毎　月	その他
スクリュー、ナット	点検、増締	○		
燃料キャップ、燃料タンク 燃料パイプ	漏れ点検	○		
エアクリーナー	掃除	○		
キャブレター	調整			
スパークプラグ	点検、掃除		○	必要な場合
	交換			100時間ごと
マフラー	掃除		○	
シリンダーフィン	掃除		○	
燃料フィルター	掃除		○	
ブリーザー	掃除		○	
	交換			2年ごと
ギヤケース	グリース補給			50時間ごと

6－1　エアクリーナーの掃除

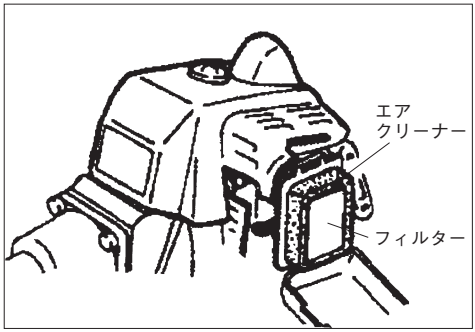
エアフィルターにゴミが詰まるとエンジンの回転が落ち、作業の効率が悪くなります。

注　記

■ **傷が付いたフィルターやフィルターを取り外したままでは絶対にエンジンを運転しないでください。ホコリやゴミなどによりエンジンが故障します。**

①クリーナーカバーを外してください。
②エアフィルターを取り出してください。
③エアフィルターをガソリンでよく洗い、乾かしてから取り付けてください。傷付いたフィルターは新品と交換してください。

④クリーナーカバーを取り付けてください。



6－2　キャブレターの調整

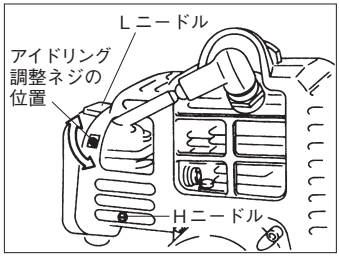
キャブレターは工場出荷時に調整してありますので、調整の必要はありません。気圧、気候、燃料の違い、10時間以上の使用による状態変化などにより、調整が必要になったときにのみおこなってください。
エンジンを始動し、2～3分間の暖機運転の後、次の手順で調整してください。また、エアクリーナーが汚れている場合は掃除してからおこなってください。

⚠ 危　険

■　刈刃の周辺に人または干渉物がないことを確認しておこなってください。アイドリングの回転調整時には刈刃が回転します。

6－2－1　アイドリングの調整

アイドリング時には刈刃が回転しないようにアイドリング調整ネジでエンジンの回転を下げます。また、エンジンが安定して回転するようにアイドリングを調整してください。



アイドリング調整ネジ
- 時計方向にまわすと→回転が上がる。
- 反時計方向にまわすと→回転が下がる。

シリンダーカバーを取り付けた状態で調整穴にドライバを差し込んで調整します。

6－2－2　低速と高速の調整

標準開度は、調整ネジを静かにいっぱいに締め込んだところからの戻し回数です。（φ230mmの刈刃を付けた状態でエンジン回転速度が10000～11000min^{-1} {rpm} を目安に調整してください。）

	標準開度
Lニードル	1±¼回戻し
Hニードル	2回～1 ½回戻し

⚠ 注　意

- **無負荷全開運転をするとエンジンの回転が上がりすぎ、焼き付くおそれがありますので、空ぶかしはしないでください。**
- **低速、高速の調整は難しいため、エンジン回転の不調がある場合はお求めの販売店または弊社営業所にお問い合わせください。**

6－3　スパークプラグの点検

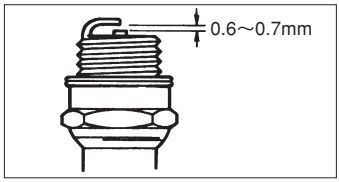
⚠ 注　意

- **スパークプラグを外すときは、前もってスパークプラグとシリンダーヘッド部を掃除し、泥や砂などをシリンダー内に入れないようにしてください。**
- **スパークプラグを外すときは、必ずエンジンが冷えてからおこなってください。シリンダーのネジ穴をいためます。**
- **スパークプラグは正しく取り付けてください。斜めに取り付けるとシリンダーのネジ穴をいためます。**

エンジンが始動しにくくなったり、アイドリングが不安定になった場合は、まずスパークプラグを点検してください。

①プラグキャップを外し、スパークプラグを付属のプラグレンチで外してください。

②ワイヤーブラシでスパークプラグの汚れを落としてください。必要なら電極すきまの調整をしてください。正しいすきまは0.6～0.7mmです。



③スパークプラグを手で締め付け、その後プラグレンチでしっかりと締め付けます。プラグキャップをしっかりと奥まで取り付けてください。

注　記

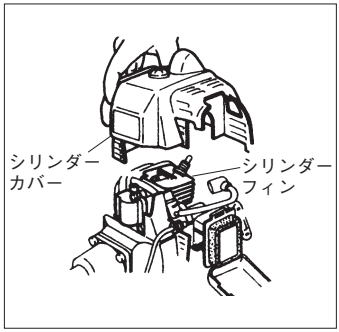
■ **約100時間運転後、または電極の腐食がひどい場合はスパークプラグを交換してください。**
■ **スパークプラグはチャンピオン製CJ8をご使用ください。**

6－4　シリンダーフィンの掃除

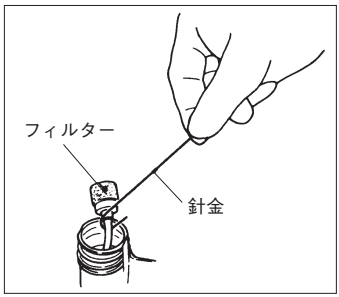
⚠ 警　告

■ **シリンダーフィンの汚れや草のつまりはエンジンの過熱、焼き付きや火災の原因となりますので定期的に点検、清掃してください。**

①プラグキャップを外し、シリンダーカバーの取り付けノブをゆるめシリンダーカバーを外してください。
②シリンダーフィンやシリンダーカバーなどに付着している草やほこりを取り除いてください。
③清掃後はシリンダーカバーおよびプラグキャップを組み付け、ネジを確実に締め付けてください。（シリンダーカバーを組み付けるときはファンカバーとリコイルケースにきちんとはめてください。）

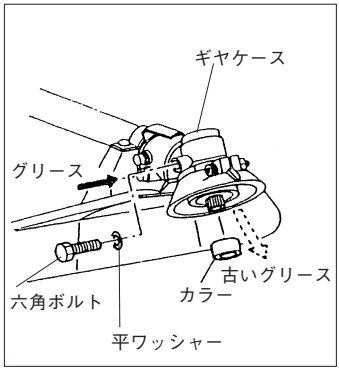


6－5　燃料フィルターの掃除



①燃料注入口から針金などで燃料フィルターを引き出してください。
②先端のフィルターを取り外してガソリンでよく洗ってください。
③洗浄後、燃料フィルターをもと通りに組み付けてください。
④ゴムパイプが折れないようにして、燃料フィルターを燃料注ぎ口から燃料タンク内に戻してください。このとき、燃料フィルターが燃料タンクの底に付いていることを確認してください。

6－6　ギヤケースのグリース補給



①「3－5刈刃の取り付け」の逆の手順で刈刃を取り外してから、ギヤケース右側の六角ボルト、平ワッシャーを外してください。
②六角ボルトを外した穴からグリースを補給してください。ギヤシャフトのカラーを抜いてグリースを補給すると古いグリースは押し出されます。グリースは新ダイワ純正グリースを使用してください。
③六角ボルト、平ワッシャーを取り付けてください。

6－7　刈刃の目立て

⚠ 警　告

- **作業には、必ず保護メガネ、ヘルメットまたは帽子、長袖、長ズボン、長靴、手袋を使用してください。**
  また、肩掛けバンド（ストラップ）を必ず使用してください。
- **刈刃にひび割れ、変形、振れなどの異常がある場合は絶対に使用せず、新品と交換してください。**
- **作業時間が長引く場合は、予備の刈刃を用意しておき、切れなくなったら交換してください。**
- **刈刃の目立て（研摩）は専門技術が必要ですので、自分で目立てをしないで販売店に依頼するか、新品の刈刃を使用してください。**

7．長期保管

長期間（約60日以上）に渡って本機を使用しないときは、次の手順に従って保管してください。

①各部を十分に掃除してください。
②点検・整備の項を参考にして点検・整備をおこなってください。
③燃料タンクの燃料を排出し、燃料ポンプ(透明の半円形)を数回押し、キャブレタ内の燃料も排出してください。こぼれた燃料は完全にふきとって下さい。
④エンジンを始動し、キャブレター内に残った燃料を使い切ってエンジンが停止するまで低速で運転してください。
⑤プラグキャップ、スパークプラグを外し、スパークプラグ穴から少量のオイルをシリンダー内に流し込み、オイルがゆきわたるように２～３回リコイルスターターを引いてください。
⑥スパークプラグ、プラグキャップをもと通りに取り付けてください。
⑦クリーナーカバーを外して、フィルターを掃除してもと通りに取り付けてください。
⑧乾燥した火気のない冷暗所に保管してください。

⚠ 注　意

■フューエルタンク、フューエルパイプ、キャブレターの中に燃料が残った状態で長期間保管しないでください。燃料が変質します。

8．故障の診断と処置

8－1　エンジンが始動しない場合

区分	原因	処理	参照ページ
エンジンが回転しない	・リコイルスターター不良	販売店で修理	—
	・ピストン焼き付き	販売店で修理	—
圧縮が弱い	・スパークプラグのゆるみ	締め付け、再始動	18・26
	・シリンダー、ピストン	販売店で修理	—
	・ピストンリングの摩耗	販売店で修理	—
燃料タンクに新しい混合ガソリンが入っていますか	・燃料の変質	新しい混合ガソリンを入れて再始動	17・18
キャブレターに燃料が来ない	・燃料フィルターの目づまり	燃料フィルターを交換	28
	・燃料パイプの破損	販売店で修理	—
スパークプラグが発火しない	・電装部品の故障	販売店で修理	—
	・スイッチ故障	販売店で修理	—
	・スパークプラグが濡れている	スパークプラグを乾燥させ、リコイルスターターを回しシリンダー内の燃料を排出し、再始動	20
	・スパークプラグにカーボンたい積	掃除し、再始動	18・26
	・スパークプラグの電極すきま不良	0.6～0.7mmに調整	26
	・スパークプラグが損傷または種類が違う	新しいスパークプラグCJ8に交換	26

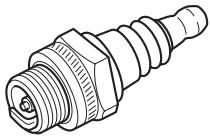
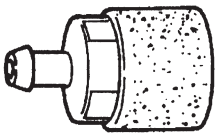
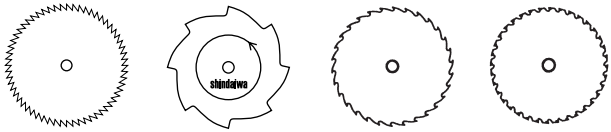
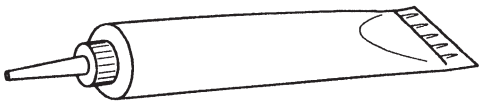
8－2　力がない場合

区分	原因	処理	参照ページ
エンジンの過熱	・過負荷使用	回転を必要以上に上げない	—
	・燃料が薄い	キャブレターの調整	25
	・燃料混合比不良	正しい混合比の燃料を補給する	17
	・ピストン上、マフラー内にカーボンたい積	販売店で修理	—
エンジンの回転むら	・エアフィルターの目づまり	エアフィルターの掃除	24
	・スパークプラグの締め付けがゆるいまたは不良	締め付けるまたは交換	26
	・燃料フィルター、パイプの詰まりまたはエア混入	掃除または交換	28
	・燃料に水の混入	燃料交換	17
	・ピストン焼き付き	販売店で修理	—
	・キャブレター不良	販売店で修理	—

8－3　その他の故障

区分	原因	処理	参照ページ
加速不良	・エアフィルター目づまり	掃除	24
	・燃料フィルター目づまり	掃除	28
	・燃料が薄い	キャブレターの調整	25
	・アイドリング回転数が低い	アイドリング調整ネジで調整	25
運転中にエンジン停止	・燃料の欠乏	燃料補給	17
	・燃料フィルター目づまり	掃除	28
	・燃料に水の混入	燃料交換	17
	・スイッチ故障	販売店で修理	—
	・スパークプラグのカーボンたい積による短絡	掃除	26
	・プラグキャップの抜け	確実に取り付ける	—
	・電装部品の故障	販売店で修理	—
	・ピストン焼き付き	販売店で修理	—
エンジン停止困難	・スイッチ故障	販売店で修理	—
	・アース線の断線	販売店で修理	—
	・エンジン過熱	アイドリングにして冷却	—
燃料の漏れ	・キャブレターのネジのゆるみ	販売店で修理	—
	・燃料パイプの破損	販売店で修理	—
	・燃料タンクの破損	販売店で修理	—

9．主な消耗品（お買い上げの販売店にご用命ください）

スパークプラグ	
フューエル フィルター	
エアフィルター	
刈刃	 のこ刃　VR8枚刃　笹刈刃　チップソー
グリス	

１０．仕様

モデル名	SSR230－SPBY	SSR230－S2BY
エンジン型式名	SSR230－S	
エンジン形式	空冷２サイクルエンジン	
排気量　ml {cc}	22.5	
点火方式	電子点火	
スパークプラグ	チャンピオンCJ8	
気化器	ダイヤフラム式	
エアクリーナー	半湿式	
燃料タンク容量　L	0.5	
燃料	混合燃料（ガソリン：２サイクル専用オイル=25：１）	
始動方式	リコイルスターター(Softスタート)	
停止方式	押ボタンスイッチ	
回転方向	上から見て反時計方向	
動力伝達方式	自動遠心クラッチ	
ハンドル	プラスチック片手ハンドル	両手ハンドル
スロットルレバー	固定式	
刈刃	のこ刃、笹刈刃、VR8枚刃、チップソー	
取付穴径　mm	φ25.4	
外径　mm	φ230	
本体乾燥質量　kg	4.6	4.9
外形寸法　mm （長さ×幅×高さ）	1790×230×230	1790×560×360

■　本体乾燥質量は刈刃、ガード、ストラップを除く。
■　仕様は予告なく変更することがあります。

MEMO

MEMO

株式会社やまびこ

〒198-8760 **東京都青梅市末広町 1-7-2**　　**Tel 0428-32-6181**

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

やまびこレンテックス株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6777（代）

やまびこ産業機械株式会社
〒731-3167　広島市安佐南区大塚西6丁目2-11　　Tel 082-849-2005（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750 281-030 0

(C) 2009 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。